

gelatinosa)ノ一品ヲ切テ見ルト分岐セル絲狀體ハ中々見付カラナイ、又胞子ノ大サモ皆同一範圍ニ屬スルノデ予ノ所檢品ヲ *L. gelatinosa* Hirr. 和名づきんたけニ充テ、然ルベシト思フ、然ラバ第三ノ新種 *L. japonica* Yasuda. 和名あをづきんたけナルモノハ如何ナルモノカト云フニ故安田理學士ハ大正五年十一月ノ植物學雜誌第三五九號第三九四頁ニ邦文ノ記載ヲ又大正六年一月ノ同誌第三六一號歐文欄第一頁ニ獨逸文デ圖ヲ入レテ發表シテ居ラル、此等ノ記載ヲ讀ムト殆ド *L. gelatinosa* ト區別ガ六カシイノデアル、又安田氏ハ *L. japonica* ガ乾燥後ニ帶綠「オリープ」色トナルコトガ初メヨリ帶綠色ノ *L. atrovirens* Pers. ト異ル點ヲ力説セラル、モ此 *L. atrovirens* ナルモノハ遙ニ小形ノ種デ却テ同ジク乾燥後ニ帶褐「オリープ」色トナリ殆ド同大、同性質ノ *L. gelatinosa* ト比較セラレザリシヲ怪ムノデアル、此等ノ點ハモット多數ノ標本ヲ檢シテ確定サルモノト思フノデアルカラ、茲ニ掲ゲタ様ナ菌ヲ採集サレタ仁ハ以上ノ點ニ御注意アラシメコトヲ希フ次第デアル

○彎珠ト亞麻トノ來歴

理學博士 白井光太郎

僕ハ或人カラ彎珠ニ就キテ左ノ質問ヲ受ケタ

(一)彎珠といふ字は何書に出て居候哉

(二)此物の事を載せたる本草物産の書は何々に候哉

此ニ就テ僕ノ貧弱ナル智見ヨリ左ノ答ヲ致シマシタガ讀者諸君ノ該博ナル御示教ヲ得ル事ガ出來レバ質問者モ大ニ満足スル事ト存ジマスカラ此ニ之ヲ掲グル事ト致シマス

(一)わんじゅハ大抵假名ニテ書シ彎珠ノ文字ヲ用キタル書ハ餘リ見受ケズ、私ノ見タル書ニテハ紀州產物考ニ彎珠一名はかまかづら紀州牟呂郡江住ノ島ニアリ他處ニ不見大蔓ニシテ其莖ノ周圍二尺ニ及ブ長サ數丈ニシ

彎珠ト亞麻トノ來歴

テ喬木ニ蔓フ葉矢筍ノ如クニシテ互生ス花ハイマダ見ズ莢ノ形扁豆ニ似テ闊ク中ニ二黒子アリテ至リテ堅シ形羅望子（わにぐちもだま）ニ似テ小シ根ハ黑色大塊ナリ俗ニ此實ヲ帶テ惡氣ヲ避クト云

トアリ此書ハ著者名ヲ記セズト雖モ小原桃洞氏ノ作ナラント思ハル、紀州續風土記物産ニモ定メシ此物ノ記事アランモ今手元ニ其書ヲ有セザレバ參考ニ由ナシ

（二）わんじゆニ就テノ記事ニテ僕ノ知ル所ニテ最古キハ寶曆庚辰ニ戸田旭山ガ大坂ニ開キシ物産會ノ出品目錄文會錄ノ所載トス八幡ノ人片岡志摩トイフ人ノ出品ニ鬼見愁方言ワンジュ上ニ有圖トアリテ小圖ヲ出ダセリ（寫眞參照）

鬼見愁

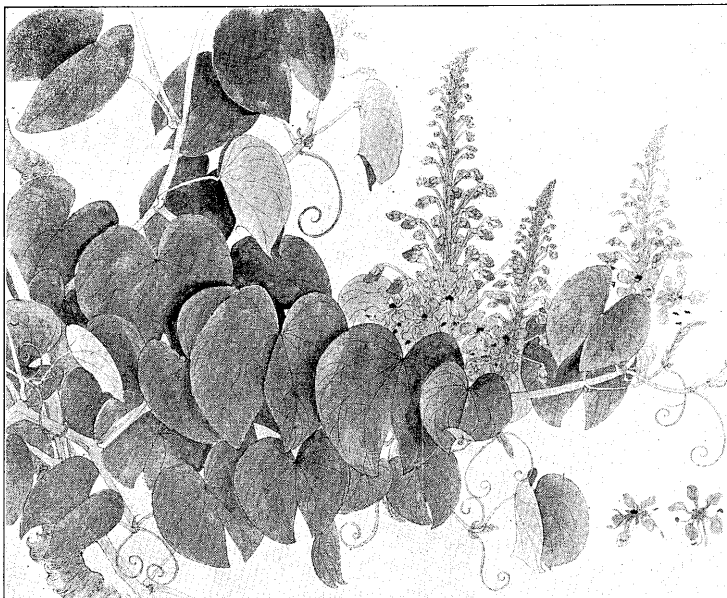


戸田旭山セル出版ニ應ジテ寶曆十年庚辰旭山ノ文會錄所載（原圖大）

左ノ說アリ蘭山ノ說ヲ見ルニハ啓蒙ヨリハ紀聞ノ方遙カニ詳密ナリ左ノ如シ

ワンジュト云アリ肥後ノ八代ノ産ナリ暖國ノ産故京ニテハ冬害ニ入ネバモタヌ也京ニテハ餘リ大ニナラズ今八幡ニ久クモチタルアリ花實生ズルナリ此モノツル立ナリ故ニ（白井云此處文續カズ脱文アラン）八代ニテ矢筍ノ如ク半分ホドマデ切込テ怪形ニナツテ互生ス蔓古クナレバ穗ニナツテ花アリ豆ノ立ナリ花ノ後ニ隱元豆ノ如キ莢アリ中ニアル豆ハ幅四分厚サ二分許也圓扁シ四角ナルガ如シキツト四角ニ角アルニハ非ズ色黒ク少シ赤ミアリ光アリ堅シ故ニ此ヲ珠數ニスワンジュノ珠數ト云前ヨリ集解ノ鬼見愁ニ充トクト充ラズモト唐ニテワンジュノ事ヲ穗珠ト書^{ワンジュ}ハ此ツブニテスル珠數ノ事ナリ其名ヲ取テ今ハカマカヅラノ名ニスルハ元誤ナリ穗珠トイフハつづニテシタル珠數ノ名也

小野蘭山紀州採藥記ニ



わんじゅ一名はかまかつら (*Bauhinia japonica* MAXIM.)

(縮小)

(棚根雲停筆)



わんじゅ一名はかまかつら (*Bauhinia japonica* MAXIM.)

(縮小)

土佐種多郡沖ノ島産 (明治十八年十月三十一日同島ニテ牧野富太郎寫生)

變珠ト亞麻トノ來歴

鬼見愁ワンジュ 江須崎ノ島ノ社地ニアリ藤大ナリ徑二寸
本草藥名備考和訓鈔ニ曰

ワンジュ 漢名未詳古説ニ鬼見愁ニ充ルハ訛也〔肥後〕海邊沙地ニ生ル蔓草ニシテ防已ノ葉ニ似テ先箭ノ如引
コミ蔓ノ古ハ莢ヲ生ジテ刀豆ニ似テ小也豆四分斗ニシテ扁ク赤黒光有テ堅硬也念珠^{ジュズ}ニ用ユ



わんじゅ一名はかまかつら (Bauhinia japonica Maxim.)

紀州田邊西内ノ神島産 大正十一年秋撮影 (守井綴藏君寄贈—牧野記)

熊野物産初志ニ
云

ワンジュ 大邊
路江須崎見老
津同所海島江
田小島田邊加
島ニ産ス蔓大
ニシテ樹頭ニ
至テ葉アリ
田代安定沖繩諸
島植物譜ニ云
ハカマカヅラ
産地沖繩島、
大嶋列島、八
重山列島、宮

古列島、久米列島○内地産ト同ジ

又亞麻ニ就テ左ノ質間ヲ受ケテ左ノ答ヲ致シマシタ是モ大方ノ御示教ヲ願ヒタイノデアリマス



亞麻 (*Linum usitatissimum* L.)

(東京府神代村下仙川ナル洋村藥用植物園ニテ大正十五年七月十日撮影)

シノミニテ之ヲ栽培スル事ハ行ハレザリシガ如シ徳川氏時代ニナリテモ亞麻ノ生植物ハ天明時代マデ之ヲ見ルヲ得ザリシガ如シ

轉珠ト亞麻トノ來歴

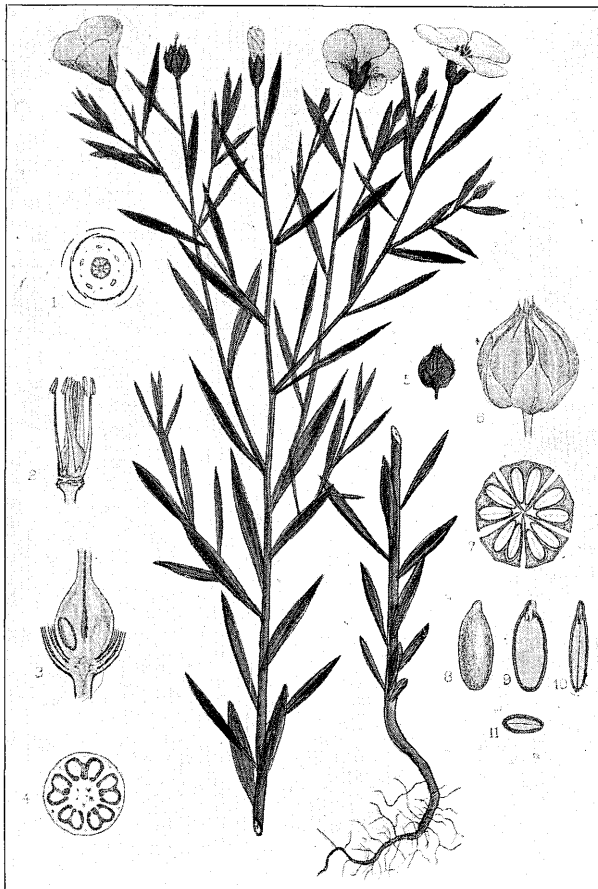
(一) 亞麻が亞麻仁採取を目的とする藥草として本邦に最初に渡來せる年代同じく始めて栽培を開始されたる時代

(二) 藥草として亞麻傳來の經路

(一) ノ答、亞麻仁ヲ藥材ニ供スル事ハ和蘭陀流瘍科ニ行ハレシ事ナレバ藥材トシテ最初ニ渡來セル時代ハ耶蘇教傳來ト同時ニ輸入セラレシ西洋醫術ト同時ナリシナラン然レドモ當時ハ種子ヲ輸入セ

變珠ト亞麻トノ來歴

寶曆十二年幕府侍醫桂川國訓ノ著セシ仙鼎方藥名語釋ト云フ書ニ「セイモンリイネ
潤ナル物ナリ諸蠻ヨリ來ル即鼈蝨胡麻ナリ」トアリ
小野蘭山本草紀聞ニ云



亞麻 (*Linum usitatissimum* L.)

(縮小)

(B. BENTLEY and H. TRIMEN'S Medicinal Plants.)

【牧野云フ】種名ノ *usitatissimum* ハ 極普通ノ ト云フ
意味ノ字デアル

アカゴマ スメゴマ
胡麻中ニ一種色赤成アリ又黃胡麻トテ黃ニナルアリ一名アブラゴマト云其赤ゴマトハチガヒ同名ナリ此亞麻ト云方ハ和産ナシ種子バカリ紅毛ヨリ渡此ヲ番名レインサアト云胡麻形ニ似テ粗ク一步餘アリ肌美ニシテ光アリ茶色ニ少シ赤ミアルモノナリタメヌリノ色ノ如シ日ニテ栽テ生ジガタシ先ダツテ關東ニテ栽テ珍ク生ジタレドモ今ハ

胡麻仁 匾粒栗色油膩光

絶タリ紅毛ヨリ渡ハ皆古シ此ヲ外科ニ誤テ前ヨリ胡麻仁ト云故ニ店ニテ胡麻仁トテ賣ル此ヲ水ニツクレバ多クグルリニヤニ出テメボウキノタネヲツケタル如シ此ノ如シテ脂ヲ去テヨリ藥用ニスルナリ畢竟胡麻トハ立異ナリトミユ其莖穗頗似蕘蔚子圓不同トアリ只其タネノ形少シク胡麻ニ似テ大ナルユヘ亞麻ト云壁虱胡麻共云又此ヲ辟虱脂麻天工開物トモ云フ

此紀聞ハ天明年中蘭山ガ京師ニ居リシ頃ノ筆記ニテ之ニ先達テ關東ニテ栽テ云々トアルモ天明年中ノ事ナルハ蘭山ノ講義ヲ筆記セル他書ニ紅毛人亞麻ノ種子ヲ天命中持來リ植シニ京ニハ生セズ江戸ニハ生タリトアルニテ知ルベシ

其後文政元年六月大槻玄澤宇田川玄眞ノ兩人幕府ニ建言シテ蘭舶ノ船主ニ命ジテ蘭醫方ニ用キル藥草五十八種ノ盆植ヲ將來セシム蘭人命ニ應ジテ同二年ヨリ八年ニ至ル間ニ之ヲ納付ス此盆植中ニ亞麻アリシ事ハ其品目ニヨリ推知セララル

文政六年藥舖大坂屋四郎兵衛ノ著ハセシ手板發蒙ニ

胡麻仁亞麻 鵝麻

アカゴマ、ヌメゴマ 蠻國ノ產ナリ

トアリ亞麻ハ當時洋舶ニ由リテ輸入セラレシヲ知ルニ足レリ左レバ名稱ハ漢字ヲ用キタレドモ輸入ノ經路ハ專ラ和蘭船ニ由リシモノト考フルヲ正當トスベキガ如シ

亞麻傳來ニ就テ別ニ一説アリ本田幸介氏著特用作物論ニ左ノ説アリトイフ

亞麻ノ本邦ニ舶來セシハ徳川幕府ノ盛世今ヲ去ル二百年前ニシテ種子ヲ王子附近ノ藥草園ニ植エ專ラ藥用ニ供セルヲ始トス現今王子附近ニ亞麻ノ野生アルヲ見ル蓋シ藥草園栽培種子ノ遺種ナラン

此説何ノ記錄ヲ本トセシヤ今之ヲ考ヘ難キヲ憾ム

【牧野云フ】右ノ王子附近ハ今日ニテハ土地ノ趣大ニ變リ人家多ク建チ亞麻ノ遺種無論見ルニ由ナシ